

国語科学習指導案

日時 平成 21 年 11 月 19 日 (木) 5 校時
学級 2 年 B 組 (男子 17 名 女子 10 名 計 27 名)
場所 2 年 B 組教室
授業者 教諭 柏木 朋子

1 単元名 対談原稿を作ることで、古人の思いを想像しよう。

主教材：「枕草子」第 1 段 春はあけぼの
「徒然草」序段・第 5 2 段 仁和寺にある法師 (光村図書 2 年)
副教材：「枕草子」第 2 5 段 にくきもの
「徒然草」第 8 5 段 猫また

2 単元について

本単元は光村図書の教科書では古典の学習として位置づけられており、どの学年も古文と漢文で構成されている。第 1 学年では、「古典との出会い」という単元で古文や漢文のリズムに慣れ親しむことを、第 3 学年では、「古典を楽しむ」という単元で、古典のおもしろさや現在まで多くの人々に読まれ、親しまれてきた古典の世界の奥深さに触れることを目標としている。そこで、第 2 学年での「古典に親しむ」という単元は、第 1 学年での入門期の学習の上に立ち、第 3 学年での古典を楽しむ学習への橋渡しをするための大切な位置にあるので、本単元の学習を通して、古文や漢文を読み味わうための基礎・基本を身につけさせることが肝要であると考ええる。

「枕草子」と「徒然草」の 2 つの随筆は、読みやすくわかりやすい作品である。身近な内容と歯切れのよいリズムは生徒にとって受け入れやすいものと思われる。そのリズムと古典ならではの言葉の響きを、声に出して読ませることで味わわせたい。また、教科書では、「枕草子」から第 1 段を取り上げ、現代にも通じる日本人の美意識や季節感を読み味わい、「徒然草」は、全 2 4 4 の章段の始まりである序段と、説話的な出来事に内在する人間の意識や、生活上の問題を述べた第 5 2 段「仁和寺にある法師」を取り上げている。

本単元では、「枕草子」と「徒然草」を現代語訳の力を借りて、教科書に載っていない「段」も読ませ、筆者との対話を考えさせることで、筆者を身近に感じさせ、古人のものの見方や感じ方をとらえさせたいと考えた。そのため、言葉の詳細な意味の把握については最小限にとどめ、「筆者の考えを読むこと」に主眼を置きたい。

3 生徒の実態

現 2 年生は新入生テストの国語において、5 段階評価の 5 が全体の 4 % のみで、1 と 2 の段階が 4 1 % と、全体的に低い傾向にある。そのためか、入学後のアンケートで「国語の学習で苦手なこと」として、「長文を読むこと」や「自分の考えをまとめること」などがあげられた。また、漢字練習など継続してやらなければいけないことも苦手とする生徒が多い傾向にある。

古典学習の主眼は、「古典に対する興味や関心を深め、親しむ態度を育てる。」ことである。しかし、事前調査から見ても生徒の古典学習に対する反応は、「なぜ古典を勉強しなくてはならないのか。」「古典は難しい。」というのが多い。最初から「古典は難しいもの」「自分とはかけ離れているもの」という考えがあっては、読解は難しい。生徒一人ひとりの力に応じた指導をすることで、「古典は難しい、面倒だ」という気持ちを持たせないような学習課題の工夫も必要であると考えた。そこで、2 人の筆者にインタビューするという想定で対話文を書くことにより、作者の心に近づくことができるのではないかと考えた。そこから、古典が「まったく別世界のもの」、「かけ離れた世界のもの」という気持ちがいくらかでも払拭され、苦手意識が少しでも無くなればと考えている。

4 単元の目標と単元の評価規準

- (1) 単元の目標 古人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむ。
 ・古典を身近なものとしてとらえ、楽しんで読もうとする態度を持つ。(関心・意欲・態度)
 ・古文をくり返し音読し、古文に慣れ親しむ。(読む)
 ・筆者のものの見方や考え方を理解する。(読む)
 ・「枕草子」「徒然草」で読み取ったことをもとにして、筆者と対話する文章を書く。(書く)
- (2) 単元の評価規準

単元名	関心・意欲・態度	書く能力	読む能力
対談原稿を作ること で、古人の思いを 想像しよう。	古典の文章に関心を 持ち、対談原稿を意 欲的に書いている。	「枕草子」「徒然草」 で読み取ったことを もとにして、筆者と 対話する文章を書い ている。	「枕草子」「徒然草」 に表れたものの見方 や考え方に触れ、作 者の思いなどを想像 し読んでいる。

5 指導計画と評価規準 (8時間計画)

	学習内容	関心・意欲・態度	書 く	読 む
1 2 3	学習の見しを持 つ。 ・「作者の心に近 づく」→「時代を 超えたインタビュ ータイム」	・単元の学習に意欲 を持って取り組んで いる。		・「古典の心に近づ く」から、筆者の加 賀美さんがどんなこ とを言いたいのかを 考えながら読んでい る。
	「枕草子」「徒然 草」の概要を知り、 教科書の原文の内 容をとらえる。	・古典を身近なもの としてとらえ、楽し んで読もうとしてい る。		・文語文の特徴に注 意して音読してい る。
4	「枕草子」第一段 をもとにして、清 少納言との対談形 式の文章を書く。	・手順に従い、積極 的に対談形式の文章 を書いている。	・自分たちと清少納 言との間の共通部分、 異なった部分を認識 し、現代にも通じる 日本人の季節感につ いて考えながら対話 文を書いている。	・「枕草子」に描か れている季節感を読 み味わい、自分が感 じる四季の季節感と 比べて読んでいる。
5 6 7	「枕草子」「徒然 草」の提示した文 章を読んで、筆者 と対話するような 気持ちで対談の文 章を書く。(本時)	・古人の感じ方や考 え方を身近なもの として感じ、対談形 式の文章を書してい る。	・「枕草子」「徒然草」 の提示した文章を読 んで、筆者と対話す るような気持ちで対 談形式の文章を書い ている。	・選んだ原文を現代 語訳を手がかりにし て読み取っている。
8	2人の筆者のもの の見方・考え方を 読み比べてみる。	・古典を読む楽しさ を感じ、他の古典の 作品も読もうとして いる。	・2人の筆者のもの の見方・考え方を読 み比べた文章を書い ている。	・清少納言と兼好法 師のもの見方・考 え方を読み比べて読 んでいる。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・「枕草子」「徒然草」の提示した文章を読んで、清少納言や兼好法師と対話するような気持ちで対談の文章を書くことができる。(書く)

(2) 本時における具体の評価規準

	具体の評価規準		C 支援が必要な生徒への具体的な手だて	評価方法
	B 概ね満足できる	A 十分満足できる		
書く能力	様式にしたがって、グループで話し合い、対談原稿を書き上げている。	グループ内で積極的に自分の考えを話し、他の人たちの意見を聞きながら、対談の文章をまとめている。	グループ内で話し合いが進まないまたは、話し合いに参加できない生徒がいる場合には、声をかけ、ヒントを与える。	観察 ワークシート 個人の作品 ↓ グループでしあげた作品

(3) 本時について

本時は新学習指導要領解説、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の中学校第2学年の(イ)「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」を具現化したものである。

「古典に表れたものの見方や考え方に触れる」ためには、古典の易しい現代語訳や古典について解説した文章を用いたり、関連する本や文章等を紹介したり、音声や映像メディアを活用したりするなど指導上のさまざまな工夫が考えられる。「古典に表れたものの見方や考え方に触れる」と「登場人物や作者の思いなどを想像する」とは密接に関連しており、登場人物や作者の思いを豊かに想像することを通して、文章を貫くものの見方や考え方に触れることもある。教材とする文章の特徴を生かしながら指導を工夫することが大切である。

本校では、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習活動を通して、「基礎・基本を身につけ、意欲的に学ぶ生徒の育成」を研究目標に掲げている。本時における基礎的・基本的知識及び技能とは、訳文などを生かして、内容について考えることである。内容理解については、生徒達自身の直接・間接の経験を呼び起こし、想像をかき立てるようにしてとらえさせたい。

そしてこれらを活用する学習活動とは、学習事項をもとに清少納言と兼好法師の二人の筆者と対話するような気持ちで対談形式の文章を自分の言葉で表現する活動である。

古典の授業というと、どうしても古語や独特の言い回しが生徒に理解できず、「原文を現代語訳に直して終わり」になることが多い。生徒は古語を単に現代語と置きかえて、現代語訳ができあがると、古文が読めたような気がして、筆者の考えを読み取るまで行き着かないことが多い。これら2つの反省をもとに、「筆者の考えを読むこと」に主眼を置いた授業展開を考えた。

基本的には、読む「段」は生徒に選ばせたいが、現代語訳でもまるごと読ませるには、読みの力と読む時間に限りがあるので、指導者が選んだいくつかの「段」を提示して読ませる。選んだ観点は、いずれも筆者のものの見方・考え方が読んでわかるものである。それぞれ原文だけでは意味を理解することができないので、現代語訳を付けて選ばせたい。2つの随筆を現代語訳の力を借りて、教科書に載っていない「段」も読ませ、筆者との対話文を考えさせることで、筆者を身近に感じさせ、古人のものの考え方や感じ方をとらえさせたいと考えた。

歴史を超えたインタビュータイム
「古人と対談してみよう。」

二年 組 番
 氏名

清少納言または、兼好法師と対談してみましよう。

(参考資料プリント)

「枕草子」第二十五段「にくきもの」

「徒然草」第五十六段「久しく隣たりて逢ひたる人の」

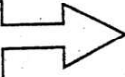
手順

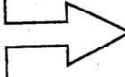
- ① 現代語訳を読んで、どんな内容か確認する。
- ② 原文を読んで、どの言葉がどんな意味なのかを確認する。
- ③ 配布したプリントなどを参考にして、質問と答えを考えて、シートにメモする。
- ④ メモしたシートをもとに、「あなた」と清少納言または兼好法師の会話文に仕立てる。

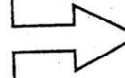
① 「 第 段 【 】 」

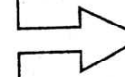
② ①について、あなたが知りたいことは何ですか？

取材メモを書きましょう。









歴史を超えたインタビュertime
ー 古人と対談してみよう。ー

二年 組 番
氏名

■ 清少納言または、兼好法師と対談してみましよう。

〈参考資料プリント〉

「枕草子」第二十五段「にくきもの」

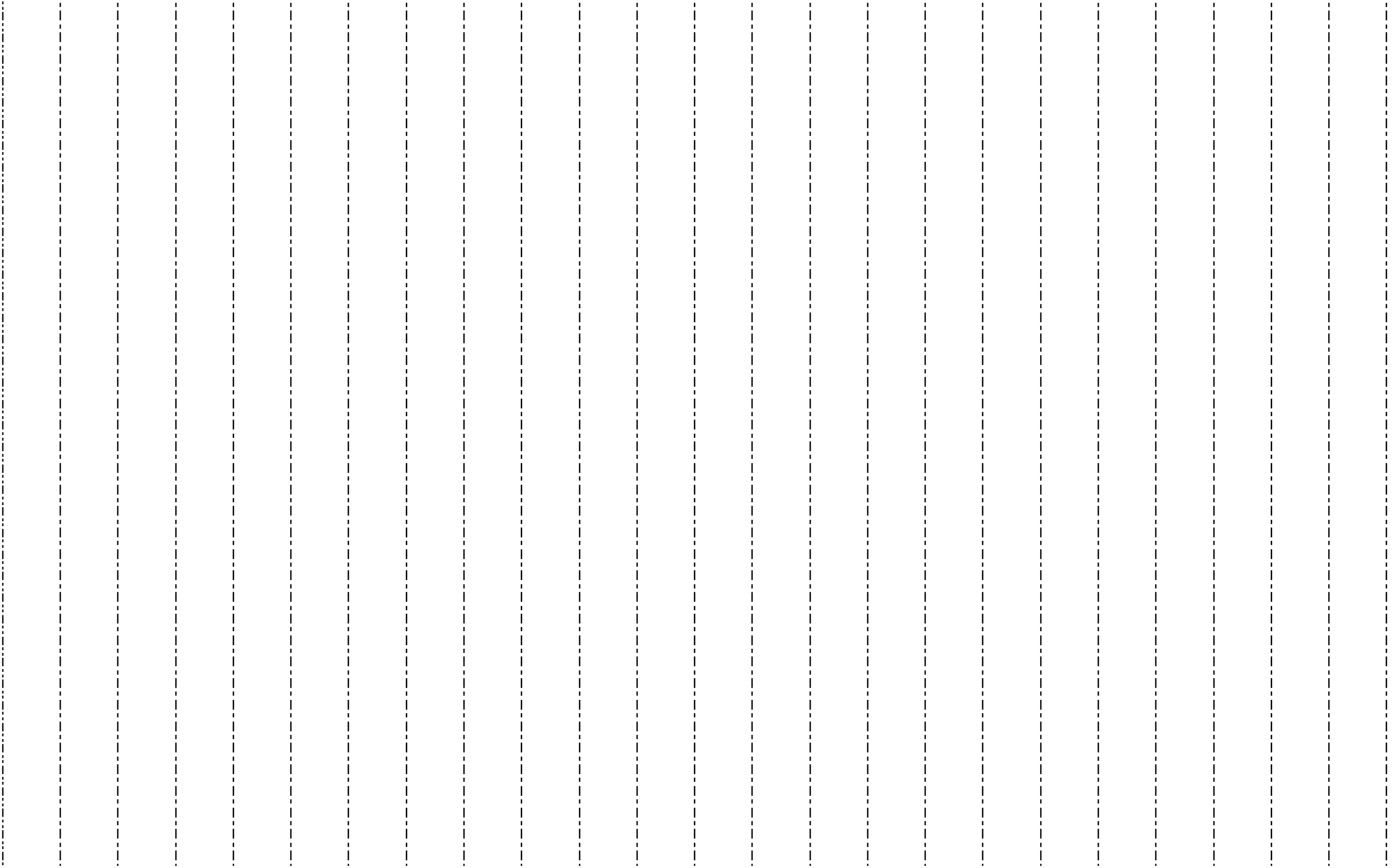
「徒然草」第五十六段「久しく隔たりて逢ひたる人の」

手順

- ① 現代語訳を読んで、どんな内容か確認する。
- ② 原文を読んで、どの言葉がどんな意味なのかを確認する。
- ③ 配布したプリントなどを参考にして、質問と答えを考えて、シートにメモする。
- ④ メモしたシートをもとに、「あなた」と清少納言または兼好法師の会話文に仕立てる。

① 「 第 段 」

- ② ①について、あなたが知りたいことは何ですか？
取材メモを書きましよう。



歴史を超えたインタビュertime
ー 古人と対談してみよう。ー

二年

組

班

■兼好法師との対談原稿を班でまとめましょう。

メンバー

「徒然草」第五十六段

【久しく隔たりて逢ひたる人の】

あなたと兼好法師との会話文にしあげてみましょう。
う。続きをどうぞ。

私… 今日はお忙しい中、兼好法師様においでいただき、ありがとうございます。
兼好法師… 私は人々に「暇な人だ」と思われているようですが、実は忙しいのですよ。今日も、歌会に出席していたのですが、あなたに呼び出されて途中で抜けてきました。しかたがない。あなたのためにインタビュートつきあいましよう。

私…

